

白子富士・・・



小学生の頃、学区域外に出ることに心理的な壁があったように記憶しています。それは今も残っているようで、ふいに都内から埼玉県に踏み入ると、ひどく遠くに来たような気分がします。皆さんはいかがでしょう。

今回は、富士塚パート2として、その近くて遠い和光市の白子富士をご紹介します。

成増駅から旧川越街道の新田（しんでん）坂を下ると白子橋に出ます。欄干には懐かしい「くつが鳴る」が記されており、これは、童謡詩人清水かつらが関東大震災後にこの橋のたもとに住んだことに由来するそうです。彼の作品は他に「叱られて」「雀の学校」等があります。ついでながら、児童文学者大石真（代表作「チョコレート戦争」）の生誕地もここで、2人は師弟の関係でした。



川を越えるとかつての白子宿です。白子とは奈良時代に渡来新羅人のために新設された武蔵国新羅（しんら）郷が転訛したとされています。

そして、この地の鎮守が目的地の熊野神社です。鳥居のすぐ右手に目当ての富士塚。高さは10m程あり、都内の第一級のものと比較しても遜色ありません。ただここは熔岩積みではなく、赤土盛りでまるでツツジ山のようなようです。傾斜も急で登りにくいのですが、頂上からの見晴らしは絶景です。頂上にベンチはあるのですが、祠はなく、ちゃんとした作法には則っていないようです。そして、何よりの大きな特徴は、この塚が白子川に突き出した台地の尾根の末端を整形して作ったものであることで、それは背後に回ってみるとよく分かります。

この台地の上を走っているのが笹目通りです。

ここには、隣り合わせて「不動院」というお寺があり、湧き水の不動滝・夫婦銀杏・胎内巡りの洞窟・金色観音・不動院流拳法発祥の地等々見所満載の地でもあります。

中でも超お奨めが洞窟巡りです。東京近郊の洞窟では、日原鍾乳洞や稲城市の弁天洞窟などが秀逸ですが、ここは富士塚定番の胎内巡り用に造られたもの。コンパクトながら溶岩で固められているため、まさに漆黒の闇が待っています。無料で「ダークナイト？」を体験できるのです。勿論1度目は入り口の電球にスイッチを入れることをお忘れなく。2度目からはどうぞ勇気を出して挑戦してみてください。何度でも・・・。

